論文内容の要約

論文名	Anatomical Analysis of the Human Ligamentum Flavum in the Thoracic Spine: Clinical Implications for Posterior Thoracic Spinal Surgery (胸椎黄色靱帯の解剖学的解析：胸椎後方手術における臨床的意義)
氏名	Sayed Abdullah Ahmadi
<p>【目的】 黄色靱帯の解剖学的知識は脊椎の後方手術において非常に重要である。頸椎や腰椎の黄色靱帯の解剖学的情報に関する報告は散見されるが、胸椎の黄色靱帯に関する報告はほとんど無い。本研究の目的は胸椎黄色靱帯の形状や周囲の骨組織との関係性を明らかにすることである。</p> <p>【対象と方法】 20 体（男性 9 体、女性 11 体）の解剖検体から全脊椎を一塊に摘出し、椎弓根にて全脊椎を前方成分と後方成分に分離した。第 1-2 胸椎間から第 11-12 胸椎間の黄色靱帯に鉄粉を含んだ造影剤を塗布し、Computed Tomography を撮影した。各椎間の黄色靱帯の左右幅、頭尾側高、頭尾側の椎弓を黄色靱帯が被覆する部分の頭尾側高、及び椎間孔における黄色靱帯の被覆左右幅及び頭尾側高を 3D 解析ソフトを用いて解析した。</p> <p>【結果】 胸椎の黄色靱帯は頭側及び腹側に開く V 字型をしており、第 1-2 胸椎間から第 11-12 胸椎間にかけて左右幅、頭尾側高ともに増加していた。椎弓の尾側では腹側に黄色靱帯が付着しており、その高さは第 1-2 胸椎間 31.7%から第 11-12 胸椎間 41.7%と尾側にいくにつれて徐々に増加していたが、椎弓の頭側背側では黄色靱帯の被覆高は第 1-2 胸椎間 12.6%から第 11-12 胸椎間 4.3%と尾側にむかい徐々に減少していた。第 2-3 胸椎間より下位では椎間孔背側の頭側約 50%に黄色靱帯の被覆がみられたが、第 1-2 胸椎間には黄色靱帯の被覆が全例で認められなかった。</p> <p>【結論】 本研究により胸椎黄色靱帯の形状の特徴と骨組織との関係性が明らかとなった。下位胸椎ほど尾側椎弓における黄色靱帯の被覆が大きく、第 2-3 胸椎以遠では椎間孔頭側の黄色靱帯被覆が認められたが、第 1-2 胸椎間には黄色靱帯被覆が認められなかった。これらの情報は胸椎後方除圧術や黄色靱帯骨化巣に対する手術を安全かつ効率的に行う上で有益な情報と考える。</p>	